

[一般教養科]

[区 分 A]

森長 新

「即（すなはち）」と記す文芸性

森長 新\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

岡大文論稿、第39号、pp31-42、(2011.3)

本研究は万葉集巻第3の438～440番および446～463番の大体旅人の亡妻挽歌と称される歌々についての考察である。この11首は、A群（438～440）、B群（446～450）、C群（451～453）の3部構成と観るのが一般的だが、本研究はC群に付された「還入故郷家即作歌三首」という題詞の「即」に注目し、この記述によって、C群は家郷での詠であるものの、前の旅をうたったAB群と対比的に存在するのではなく、AB群と連続した、旅の終りの詠として捉えるべきことを指摘した。さらに、II首は伝統的な「家」と「旅」の対比という手法から派生した、「ふたり」と「ひとり」の対比という新しい手法によって貫かれていることを述べた。

鹿毛 敏夫

日本戦国大名大友義鎮的遣明船

鹿毛敏夫\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

人物往来与東亜交流（中国光明日報出版社）、pp277-284、(2010.5)

室町幕府が行った対明交渉には、西日本地方の守護大名や戦国大名が何らかの形で関わっている。それは、環東シナ海域の通交圏の一角に位置する西日本に領地を有し、大船を建造する技術と財力をもち、更に直轄水軍を軸とした領国沿岸部の海上勢力を組織しうる政治力と軍事力を保持する領主（日本史上のいわゆる「守護大名」や「戦国大名」）の伝統的特質として位置付けることができる。本稿では、こうした地理的環境と歴史的伝統を有する九州の戦国大名大友義鎮が、弘治3(1557)年に派遣した遣明船について、日本一中国の文献史料のみならず、2005年と2008年の2度にわたって実施した中国舟山島の現地調査の成果も含めて考察し、中国語で発表した。

木本 伸

ヒルシュビーゲル『エス』試論-もうひとつの近代への希望-

木本 伸\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

ドイツ文学論集、43号、日本独文学会中国四国支部編、pp. 45-58、(2010.10.)

ヒルシュビーゲル監督の映画作品『エス』の作品解釈である。

佐渡 一邦

低学年における多読指導について

佐渡一邦\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第46巻、pp. 19-27、(2010.4)

2007年度から新居浜高専においては多読の指導を開始し、2008年度は1・2年生全体に多読指導を拡大した。しかしいずれの年度も80%前後の学生が「多読を続けて欲しくない」と答えたことを踏まえてその原因を検討し2009年度以降の改善について言及した。問題は多読図書を読みやすさレベル、

配架図書数の不足、授業内での支援の不足、レポートの負担などであったと指摘し、2009年度にレポートの簡素化、授業内での支援の増加、多読図書の追加購入で対応したことを報告。また多読の効果を何らかの形で測定する必要性も指摘した。

### 福光 優一郎

#### **Effects of non-native language exposure on the semantic processing of native language in preschool children**

Junichi Takahashi<sup>\*1/2</sup>, Yuika Suzuki<sup>\*1/3</sup>, Hiroshi Shibata<sup>\*3/4</sup>, Yuichiro Fukumitsu<sup>\*5</sup>, Jiro Gyoba<sup>\*1/2</sup>, Hiroko Hagiwara<sup>\*2/6</sup>, Masatoshi Koizumi<sup>\*1/2</sup>

<sup>\*1</sup>Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University, <sup>\*2</sup>RISTEX, Japan Science and Technology Agency, <sup>\*3</sup>Japan Society for the Promotion of Science, <sup>\*4</sup>Graduate School of Informatics, Kyoto University, <sup>\*5</sup>Niihama National College of Technology, <sup>\*6</sup>Tokyo Metropolitan University  
Neuroscience Research 69, 246-251, (2011.03)

We investigated the effects of non-native language (English) exposure on event-related potentials (ERPs) in first- and second-year (four- and five-year-old) preschool Japanese native speakers while they listened to semantically congruent and incongruent Japanese sentences. The children were divided into a non-native language exposed group (exposed group) and a group without such experiences (control group) on the basis of their exposure to non-native language. We compared the ERPs recorded from the two groups in each of the two preschool years. N400 was observed both in the first- and second-year preschoolers. Differences owing to exposure to non-native language appeared in the second-year preschoolers but not in the first-year preschoolers. In the second-year preschoolers, the N400 onset in the exposed group was shorter than that in the control group, but there was no difference in the N400 offset between the exposed and control groups. Furthermore, the scalp distribution of the N400 in the exposed group was broader than that in the control group. These results indicate that the time course and scalp distribution of semantic processing for native language sentences in young children fluctuated depending on exposure to non-native language.

### [区 分 B]

### 野口 裕子

円地文子 人と文学

野口裕子\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

勉誠出版 平成22年I 1月

本書は、円地文子その人の出生から作家としての歩みを、その折々の主要作品に言及しながら辿った1部と、作品研究の2部に分かれている。1部では、特に東京帝国大学教授で国語学者の上田萬年の次女という生まれが円地に与えたものを分析し、劇作家として出発しながら、戦後の苦難を乗り越え小説家として一時代を築いたことを書いている。また、2部では古典との関係を中心に作品を論じている。

### 鹿毛 敏夫

南蛮交流

鹿毛敏夫\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

史跡で読む日本の歴史8 アジアの中の日本 (吉川弘文館)、pp111-134、(2010.8)

戦国日本の流動的な内部構造に即した時代認識から、遣明船の派遣に象徴される室町幕府のアジア外交

のなかに島津氏・大友氏・松浦氏・大村氏などの戦国大名の「南蛮交流」の姿を浮きあがらせ、更に豊臣政権から江戸幕府にかけて進展する国家的「南蛮交流」への転換を描いた。当該期日本の政治的中枢である畿内の室町幕府や豊臣政権と密接に結び付いた堺、16世紀後半の九州で全盛を迎えながらも世紀末に登場した豊臣政権をまえに没落した戦国大名大友氏膝下の豊後府内、遣明船の寄港地から戦国大名松浦氏の時代を経て江戸幕府初期の貿易拠点へと性格を変転させていった平戸、そして、戦国大名大村氏の町建てから近世には江戸幕府による貿易統制の恒常的拠点として機能した長崎という4つの南蛮交易都市の実態をわかりやすく解説した。

### 木本 伸

ハインリヒ・ペル『文学の理性をめぐる試み』

(ノーベル賞記念講演、ストックホルム、1973年5月2日)

木本 伸\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

広島ドイツ文学第24号、広島ドイツ文学会編、pp. 33-48、(2010. 7.)

1973年5月2日にストックホルムで行われたハインリヒ・ペルのノーベル賞記念講演「文学の理性をめぐる試み」の全訳である。

## [区 分 C]

### 鹿毛 敏夫

文字のちから

鹿毛敏夫\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

学校図書館(全国学校図書館協議会)、第724号、pp16、(2011. 2)

全国学校図書館協議会からの依頼を受け、悠久の人類社会の歴史のなかで文字が果たしてきた役割について学生向けにわかりやすくまとめて、同会機関誌にて解説した。

### 鹿毛 敏夫

アジアから見た豊後大友氏

鹿毛敏夫\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

大分合同新聞、(2006. 6. 17～連載継続中)

九州の戦国大名大友氏が活動した15・16世紀は、世界史上の大航海時代に相当する。この時代、西日本各地の地域権力は、日明・日朝関係を軸に自らも主体的なアジア外交を展開し、東アジアには環シナ海交流圏とも呼べるマクロな文化圏が形成された。海域交流史における近年の活発な研究蓄積の成果を一般向けに広く還元するために、新聞紙上の連載企画として、中世日本の歴史をアジア諸国との関わりのなかで叙述する記事を2006年度から引き続き5年間執筆している。今年度分の連載は、以下の19テーマ。4/4「ザビエルの聖遺体」、5/2「朽ちぬザビエルの尊顔」、5/16「サン・ロケ教会の油彩画」、6/6「油彩画『ザビエルの生涯』」、6/20「油彩画『ザビエル鹿児島へ』」、7/4「説教するザビエル」、7/18「病める人癒すザビエル」、8/8「ザビエルと渡った使者」、8/22「3人の邦人通訳」、9/5「ゴアの聖堂」、9/19「ドイツに宗麟の像」、10/3「シェーンボルン家の絵画コレクション」、10/17「ヴァン・ダイクが描いた宗麟」、11/21「ヴァン・ダイクの野心作」、12/5「ポルトガルと往復書簡」、1/9「ポルトガル国王の手紙」、1/23「インド南部の市場」、2/6「コモリン岬から見る朝日」、3/6「ザビエル、教皇に謁見」。なお、連載は次年度以降も継続予定である。

### 野田 善弘

## 柳胎徴の同時代批判―「近人諸子の学を講ずる者の失を論ず」を読む―

野田善弘\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

東洋古典学研究 第29集、pp63～95、(2010年5月)

本稿は、民国時期東南大学の代表的知識人、柳胎徴(1880～1956)の「近人諸子の学を講ずる者の失を論ず」を中心として、その同時代人、梁啓超・章炳麟・胡適に対する批判を検討し、その思想の特質を考察したものである。つまるところ、その思想の特質は道徳修養の重視にある。これは、当時の学生たちが道徳的修養を求めず、政治や社会を論じる「実用主義」的風潮に対する痛烈な批判であり、このような「道徳主義」が東南大学の学風に大きな影響を及ぼしたと考えられる。なお、本稿は、平成21年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「柳胎徴とその周辺―東南大学知識人の発展的研究―」(19520048)の成果の一部である。

### 佐渡 一邦

#### On the Degree of Grammatical Metaphor in Embedded Clauses

佐渡一邦\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

新居浜工業高等専門学校紀要第46巻、pp51-55、(2010.4)

Sado(2009)では「動名分詞」の基本的な特徴は「不定形性」であるとしたが、扱った例はすべて(分詞構文など)主節と従属節との従属関係のみであった。しかし実際には文法的比喩、特に名詞化の段階性は従属関係のみでなく、埋め込み節にも見られると結論付けた。埋め込み節の中ではまず、定型の関係節、不定型の関係節、行為節、の順に進行柑の意味が薄れて不定型性が高まり、意味的に派生名詞に近くなることを示した。

### [区 分 D]

### 野田 善弘

#### 柳胎徴とその周辺―東南大学知識人の発展的研究―

野田善弘\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

平成19年度～21年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書(2010年5月)

本稿は、平成19～21年度科学研究費補助金(基盤研究(C))「柳胎徴とその周辺―東南大学知識人の発展的研究―」(課題番号:19520048)の研究成果報告書である。

民国時期東南大学の主要知識人である歴史学者柳胎徴(1880～1956)について、その同時代における学術思想的立場を明らかにし、あわせて、その思想形成過程について若干の考察を行った。思想的立場を考察するにあたっては、柳胎徴の胡適・章炳麟・梁啓超批判を解析することによって明らかにした。また、思想形成過程に関しては、特に柳胎徴と明治日本との関係に焦点を定め、その中でも柳胎徴の日本体験記『日遊彙編』(1903年)の訳注を作成することで、今後の研究に向けて端緒を開いた。

### 竹原 信也

#### 消費者教育への思い

竹原信也\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

消費者教育研究NICEニュースレター2010年8/9月号 NO.141、p10

連載リレートークの中で、高等専門学校における消費者教育の必要性を述べ、自身の取り組みを紹介した。

## [区 分 E]

### 鹿毛 敏夫

#### 戦国大名と九州の川

鹿毛敏夫\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

科学研究費補助金基盤研究「西欧・中国で日本史料による16-17世紀東アジア海域史の総合的研究」研究会、(2010.5)

福岡県で開催された同科研の研究会において、中世の川と当該期を生きた人間たちの生活や生産活動との関わりについて究明した。まず、中世の川における材木輸送の実態を明らかにするとともに、川とその流れの源である雨に対する当該期の人々の意識の問題について触れた。次に、中世の川における利水と治水の問題を考察しながら、川の恵みの確保と、戦国大名の川に関わる土木事業の実態を明らかにした。川は流れて海になり、海は蒸発して雲になり、雲は雨になり、雨はまた川になる。この延々と繰り返す自然界の循環構造を、中世社会に生きた人々は、どう認識し、自らの社会生活にどう利用したのかについて、川が中世の地域社会のなかで果たした役割と機能を具体的に示しながら考察した。

### 鹿毛 敏夫

#### 日元間の禅僧交流と九州の守護大名

鹿毛敏夫\*

\*新居浜工業高等専門学校一般教養科

広島史学研究会大会（広島大学）、（2010.10）

広島大学で開催された同会において、九州の有力守護大友氏の対元外交に焦点をあて、禅僧を介した外国交流が14世紀の鎌倉・南北朝期にどのように進められていたかを考察するとともに、地域の大名権力が強大化する16世紀にそうした禅僧の存在形態が社会的にどう変化していくかについても展望した。制度としての外交システムをいまだ持ち得ていなかった中世の時代、外交業務は専門技能として未分化の状態にあり、国家や地域公権力による禅僧を介しての諸外交活動は、彼らの宗数的活動や学問・芸術活動とも密接につながっていたことを明らかにした。